

## インドの製薬産業を通して考察する知的財産権と医薬品の関係

外国語学部英語学科 3 年 山田佳代子

2006 年 3 月、著者はアフリカのウガンダにて 3 週間エイズ孤児支援のボランティア活動を行った。その際、初めて HIV/AIDS が蔓延している状況を目の当たりにし驚愕した。そして、HIV/AIDS と医薬品の関係を知る内に医薬品と知的財産権が密接に関係していること、途上国の医薬品アクセスはインドの製薬産業が大きな役割を担ってきたことを知った。しかしながら、現在途上国の医薬品アクセスは聞きにさらされている。この論文では、インドにおける医薬品産業を通して、知的財産権と医薬品の関係、そして医薬品アクセスに与える影響について紹介をする。そして第二章ではインドの製薬産業の現状と発達過程を通して、知的財産がインドの製薬産業にどのような影響を与えてきたのかを考察する。第三章では、製薬産業と密接に関係している知的財産権制度の中でも大きな影響を与えたと思われる TRIPS 協定 ( Agreement on Trade-Related Aspects OF Intellectual Property Rights: 知的財産権の貿易の側面に関する協定 ) について分析を行う。そして、TRIPS 協定における影響を踏まえ、第四章で、インドの製薬産業の今後、第五章でと城北における医薬品アクセスの今後を考察することで解決の糸口をみつきたいと思う。